

令和7年度 幸福度調査結果概要

I. 幸福度調査について

「白河市行動計画～アジェンダ2027～」の進捗状況の把握に活用するとともに、重点事業の企画・立案や既存事業の拡充等を検討する際の基礎資料とする。

II. 実施概要について

対象者	18歳以上の市民3,000人(無作為抽出)
回収数	1,002人(男性:441人、女性:548人、その他:2人、 無回答:11人) 郵送回答:702人 インターネット回答:300人
回収率	33.4%(前回は31.1%)

Ⅲ. 調査内容について

- (1) 総合的な『幸福度』
- (2) 6分野単位の『幸福実感度』及び『重要度』
- (3) 6分野47項目の『幸福実感度』及び『重要度』

分 野	主 な 項 目
① 安全、安心	防犯、治安、交通安全、生活情報の伝達、救急医療、防災 等
② 健康、福祉、子育て	運動の実施、体の休息、心の安らぎ、医療・福祉の充実、子育て環境の充実、子育てに対する理解 等
③ 産業、雇用	生活の安定(収入)、仕事と生活のバランス、まちの活気、買い物の利便性、まちの魅力、生活のゆとり 等
④ 教育、文化、生涯学習	子どもの健全な成長、教育環境の充実、興味・関心への取組、文化芸術への取組、スポーツ環境、地域への愛着 等
⑤ 都市基盤、環境	外食やショッピング、交通の利便性、まちなみ、ごみや騒音、豊かな自然 等
⑥ コミュニティ	地域との交流、自分の役割、頼れる人の存在、心地よい空間、多様性への理解 等

(1) 総合的な『幸福度』

あなたは、
幸せだと感じますか？



感じる：69.2%（R5：45.8%）
感じない：28.1%（R5：12.7%）

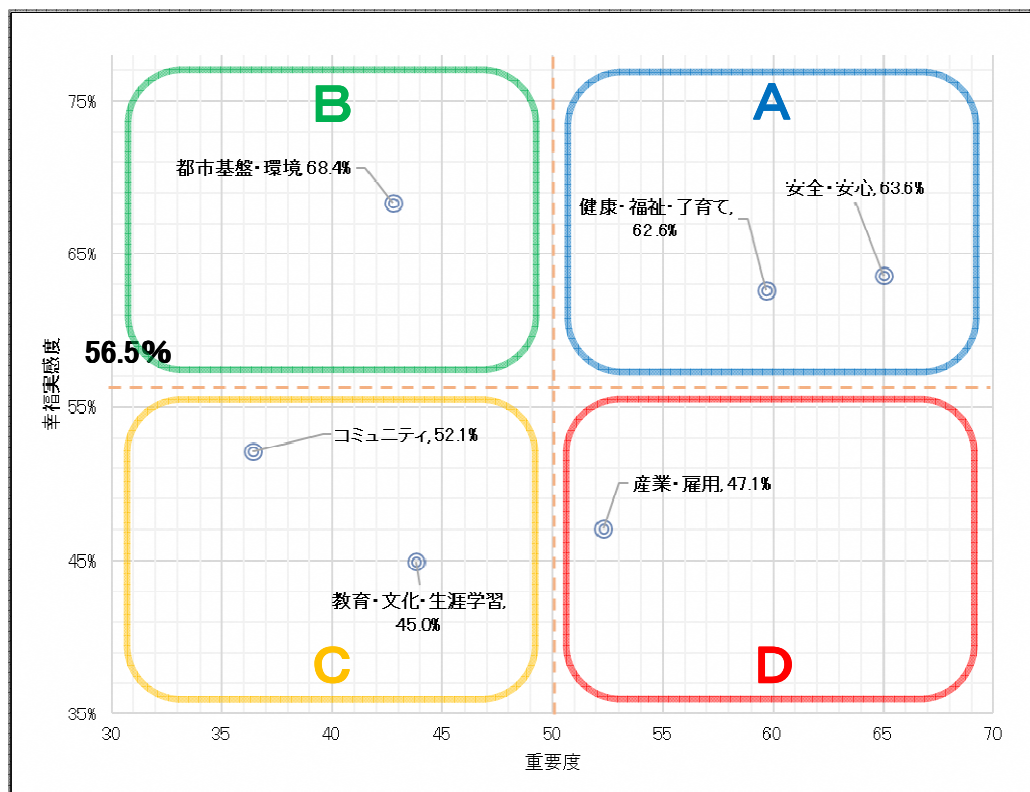
※ R5は「どちらとも言えない」が33.3%あった

〔 主な属性別の集計結果 〕

属 性	集 計 結 果
性別	「男性(66.0%)」より「女性(71.9%)」が高い
年代	「70代以上(75.0%)」が最も高く、「30代(60.0%)」が最も低い
居住地	「白河地域(69.1%)」、「表郷地域(74.7%)」、「大信地域(60.8%)」、「東地域(70.5%)」
就業形態	「家族従事者(82.4%)」が最も高く、「労働者派遣事業所の派遣社員(30.8%)」が最も低い、「正規の職員・従業員」は69.8%
世帯収入	世帯収入が多いと幸福度が高い。 「700万円以上1,000万円未満(83.8%)」「1,000万円以上(80.8%)」
配偶者の有無	「配偶者がいる(74.0%)」が最も高く、「結婚していたが現在は配偶者がいない(54.0%)」が最も低い
子どもの有無	「いない(63.7%)」より「いる(71.1%)」が高い

(2) 6分野単位の『幸福実感度』及び『重要度』

6分野について、縦軸に「幸福実感度」、横軸に「重要度」を用いたグラフでポートフォリオ分析を行った結果、重要度が高いにもかかわらず幸福実感度が低い領域に該当したのは「産業・雇用」分野であった。(R5と同じ結果)



A

重要度も幸福実感度も高い領域は、
「安全・安心」分野
「健康・福祉・子育て」分野

B

重要度は低いが幸福実感度は高い領域は、
「都市基盤・環境」分野

C

重要度も幸福実感度も低い領域は、
「コミュニティ」分野
「教育・文化・生涯学習」分野

D

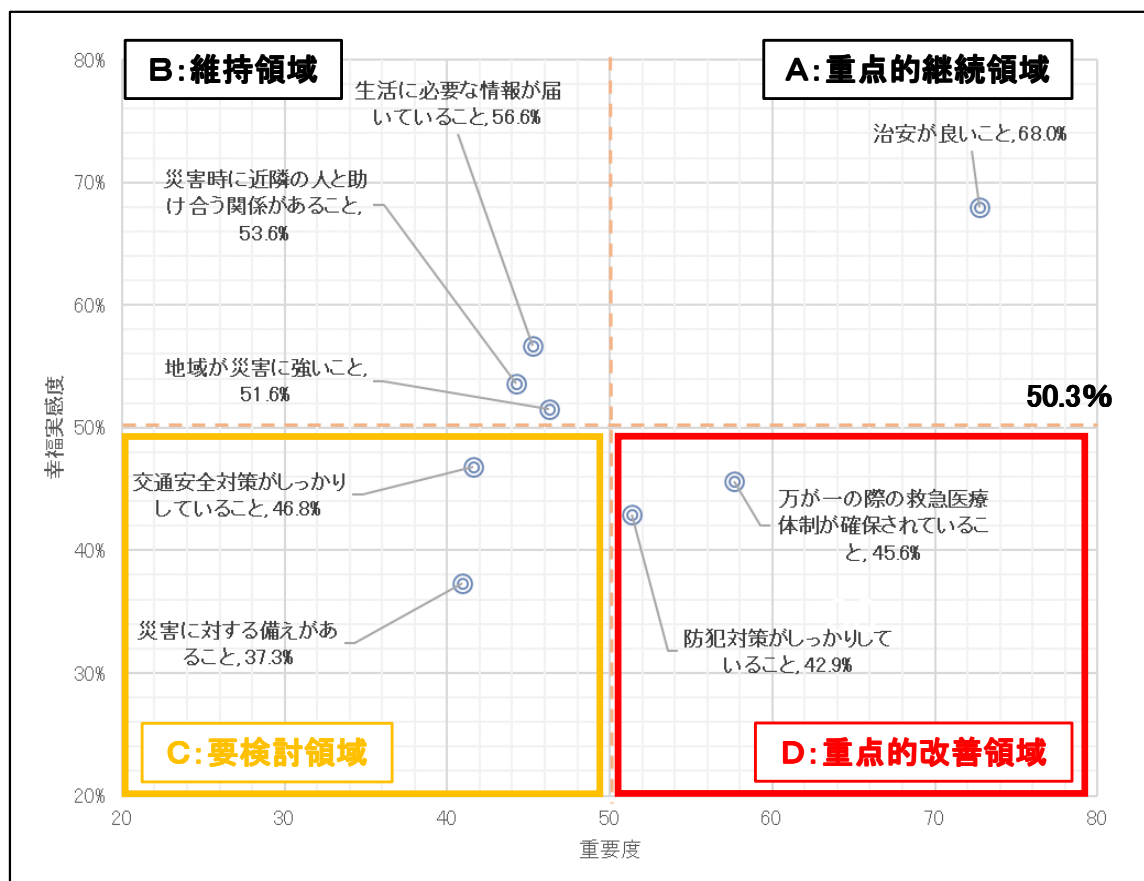
重要度が高いにもかかわらず、
幸福実感度が低い領域は、
「産業・雇用」分野

「D」の領域に該当した「産業・雇用」分野で幸福実感度が低いのは、男女別では「女性」、年代別では「30代、50代」、居住地域別では「表郷」、世帯収入別では「300万円未満」であった。(「年代別」、「居住地域別」はR5から変化あり)

(3) 6分野47項目の『幸福実感度』及び『重要度』

① 安全・安心

6分野47項目のうち、「安全・安心」分野の8項目についてポートフォリオ分析を行った結果、『重点的改善領域』に該当したのは「防犯対策の充実」「救急医療体制の充実」であった。



各領域の考え方

A: 重点的維持領域⇒重要度も幸福度も高い領域

B: 維持領域⇒重要度は低い幸福実感度は高い領域

C: 要検討領域⇒重要度も幸福実感度も低く、必要に応じて改善が必要な領域

D: 重点的改善領域⇒重要度が高いにもかかわらず幸福実感度が低く、優先的に改善していく必要がある領域

重点的改善領域

防犯対策がしっかりしていること

万が一の際の救急医療体制が確保されていること

要検討領域

交通安全対策がしっかりしていること

災害に対する備えがあること

「防犯対策がしっかりしていること(R5も重点改善領域)」について、幸福実感度が低いのは、

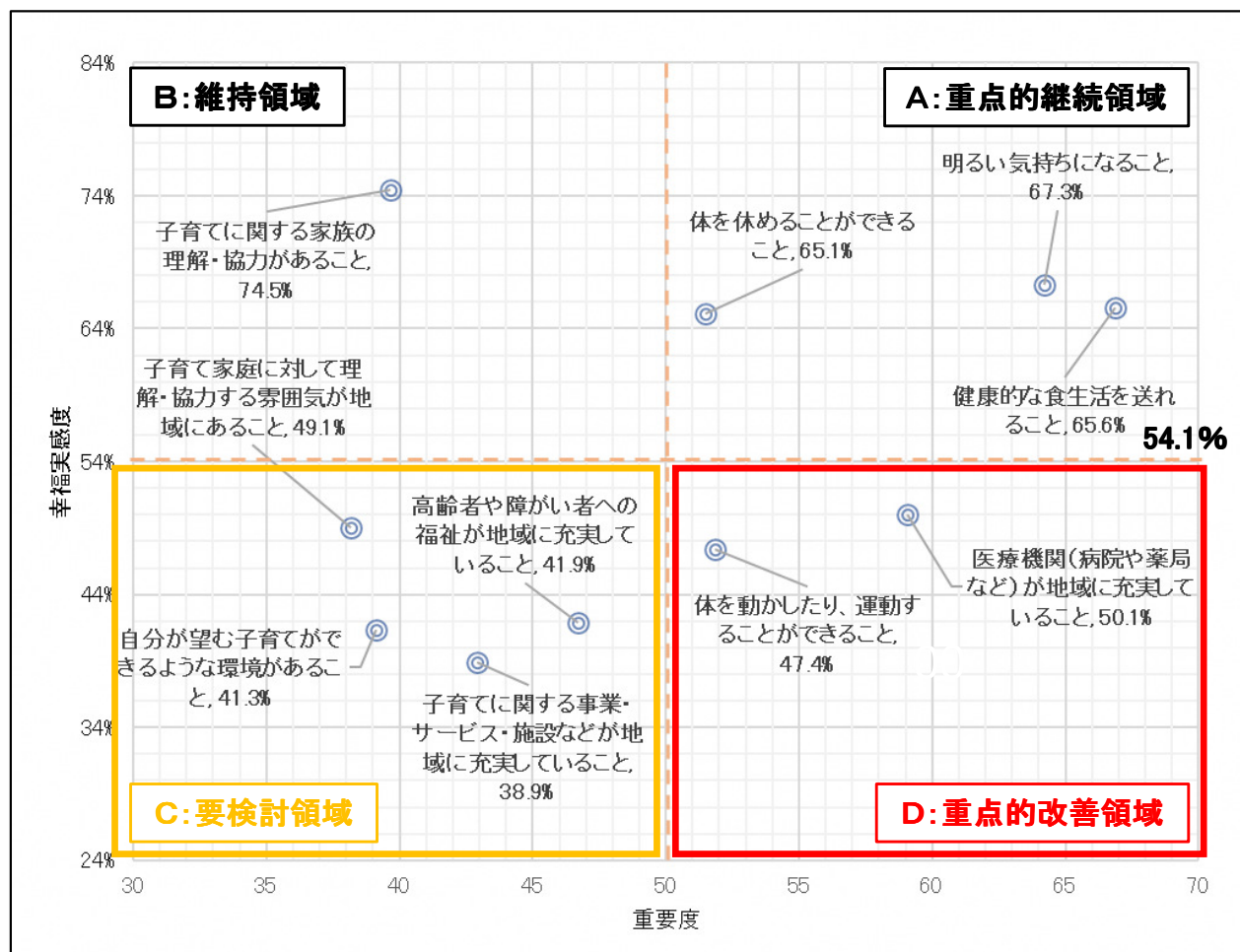
男女別では「女性」、年代別では「30代」、居住地域別では「表郷、大信、東」であった。

「万が一の際の救急医療体制が確保されていること(R5は要検討領域)」について、幸福実感度が低いのは、

男女別では「女性」、年代別では「30代」、居住地域別では「東」であった。

② 健康・福祉・子育て

6分野47項目のうち、「健康・福祉・子育て」分野の10項目についてポートフォリオ分析を行った結果、『重点的改善領域』に該当したのは「運動の実施」「医療機関の充実」であった。



重点的改善領域

体を動かしたり、運動することができること

医療機関（病院や薬局など）が地域に充実していること

要検討領域

子育て家庭に対して理解・協力する雰囲気が地域にあること

自分が望む子育てができるような環境があること

子育てに関する事業・サービス・施設などが地域に充実していること

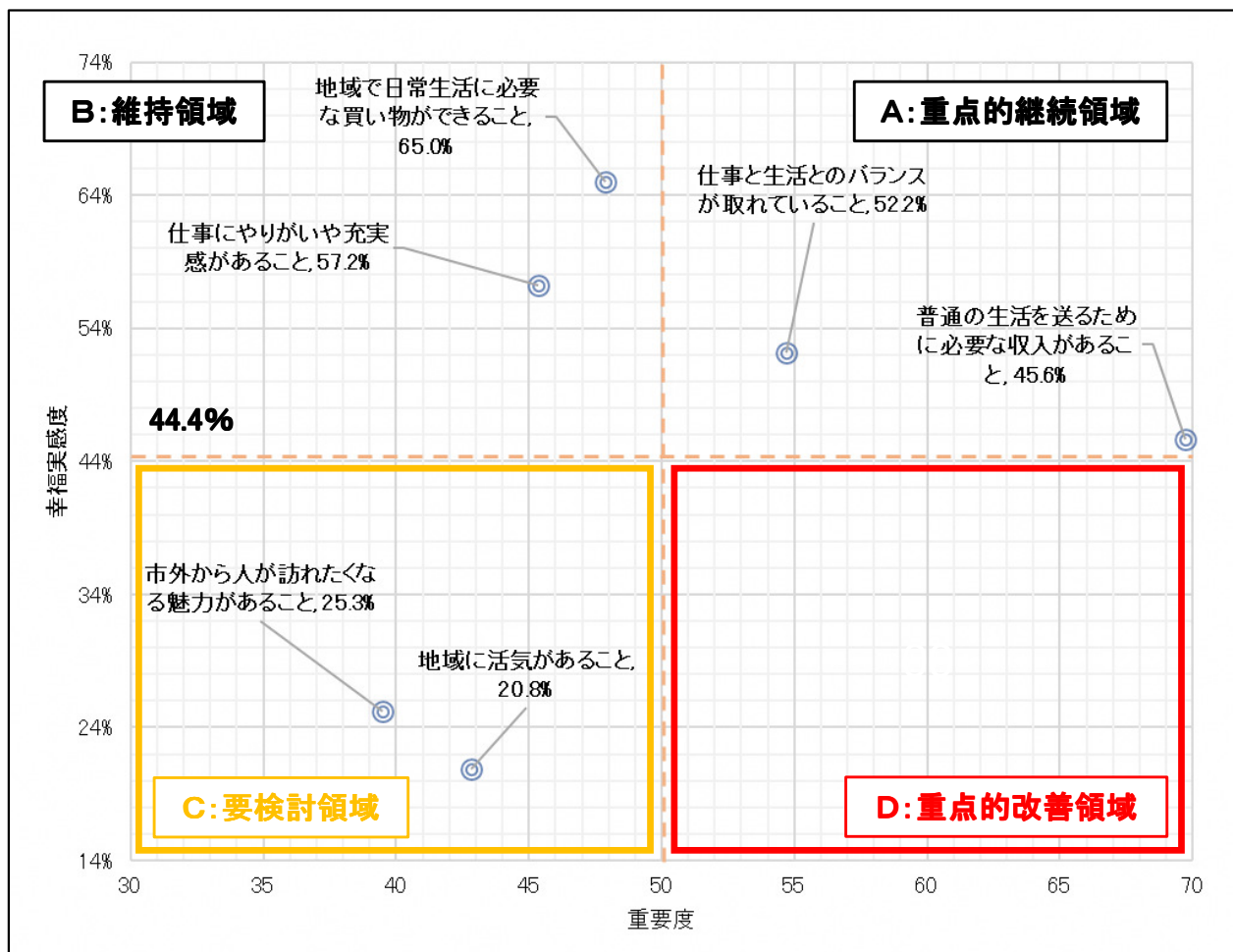
高齢者や障がい者への福祉が地域に充実していること

「体を動かしたり、運動することができること(R5は重点的継続領域)」について、幸福実感度が低いのは、男女別では「女性」、年代別では「40代」、居住地域別では「大信」であった。

「医療機関が地域に充実していること(R5も重点的改善領域)」について、幸福実感度が低いのは、男女別では「女性」、年代別では「30代」、居住地域別では「表郷、東」であった。

③ 産業・雇用

6分野47項目のうち、「産業・雇用」分野の6項目についてポートフォリオ分析を行った結果、『重点的改善領域』に該当したのは、「生活に必要な収入」であった。



重点的改善領域

普通的生活を送るために必要な収入があること

※幸福実感度が45.6%で平均（44.4%）を上回るが、僅差であるため重点的改善領域とする。

要検討領域

市外から人が訪れたい魅力があること

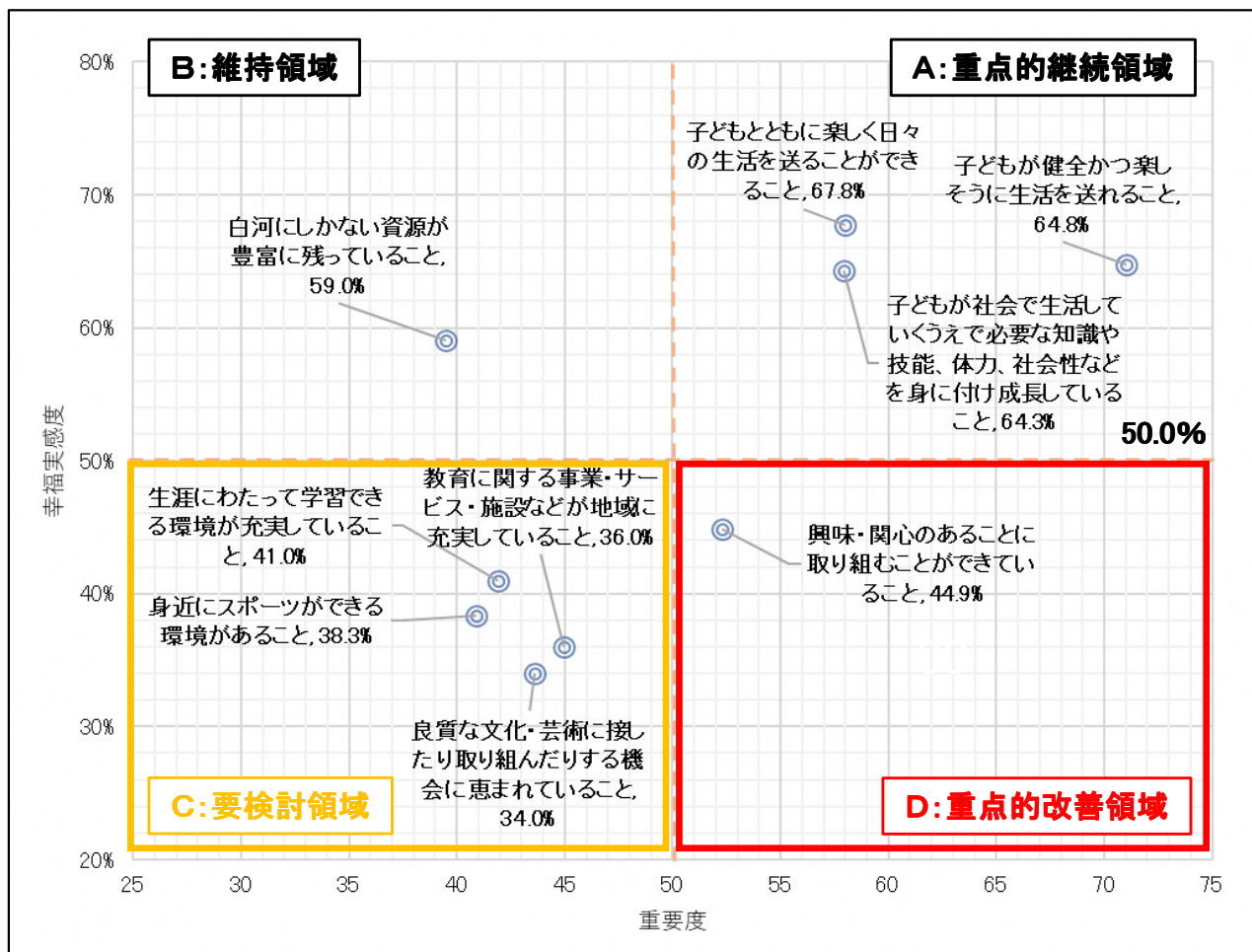
地域に活気があること

R5調査時に『D：重点的改善領域』であった「仕事と生活のバランスが取れていること（26.8%）」は、幸福実感度が高まり、今回調査において『A：重点的継続領域』に該当することとなった。

「生活に必要な収入（R5も重点的改善領域）」について、幸福実感度が低いのは、男女別では「女性」、年代別では「10・20代、30代」、居住地域別では「表郷」、就業形態では「労働者派遣事業者の派遣社員」、子どもの有無では「いない」であった。

④ 教育・文化・生涯学習

6分野47項目のうち、「教育・文化・生涯学習」分野の9項目についてポートフォリオ分析を行った結果、『重点的改善領域』に該当したのは「興味・関心事への取組み」であった。



重点的改善領域

興味・関心のあることに取り組むことができること

要検討領域

生涯にわたって学習できる環境が充実していること

身近にスポーツができる環境があること

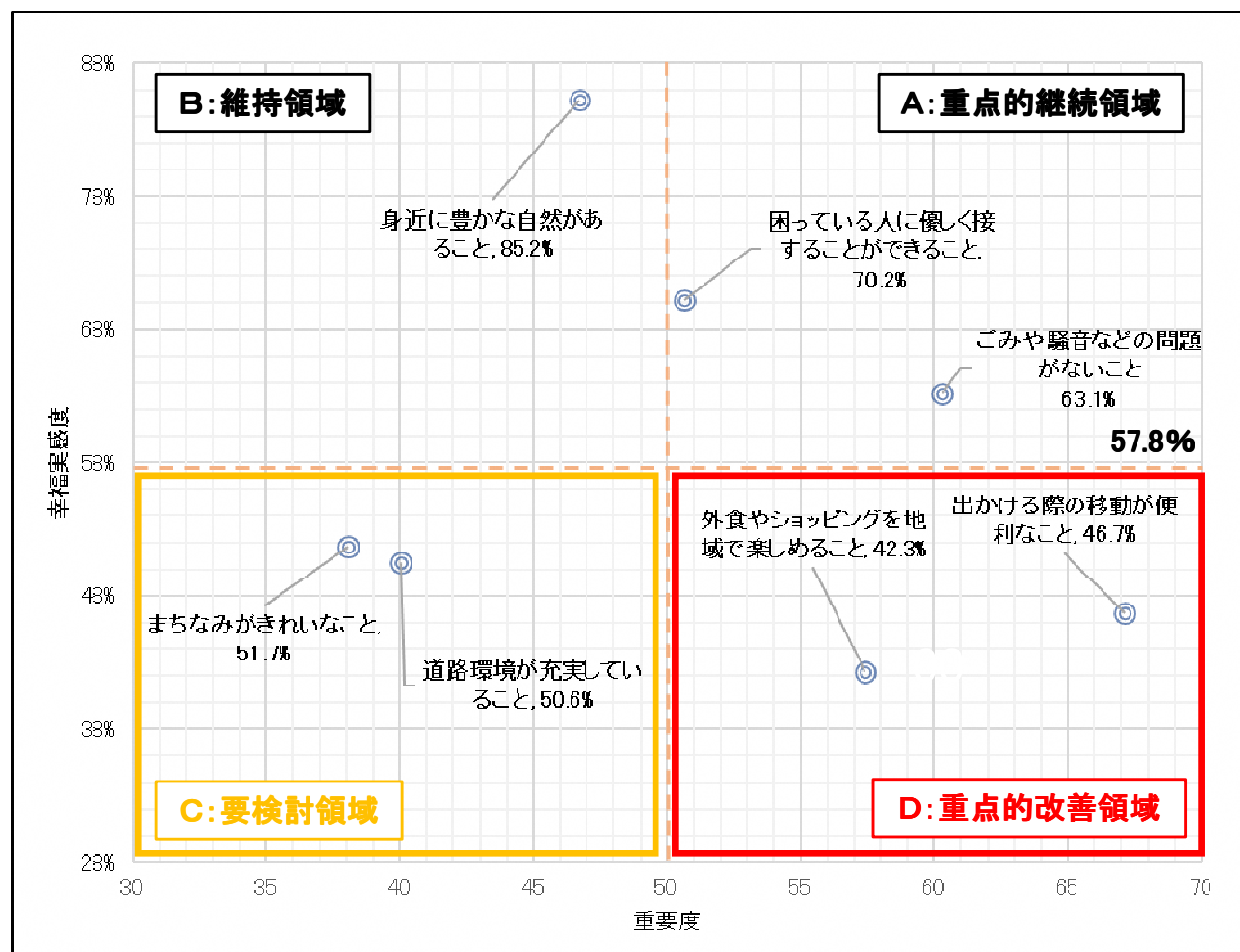
教育に関する事業・サービス・施設などが地域に充実していること

良質な文化・芸術に接したり取り組んだりする機会に恵まれていること

「興味・関心のあることに取り組むことができること（R5も重点的改善領域）」について、幸福実感度が低いのは、男女別では「女性」、年代別では「50代」、就業形態別では「家族従事者、労働者派遣事業所の派遣社員」、子どもの有無では「いる」であった。

⑤ 都市基盤・環境

6分野47項目のうち、「都市基盤・環境」分野の7項目についてポートフォリオ分析を行った結果、『重点的改善領域』に該当したのは「**外食やショッピングの充実**」「**交通の利便性**」であった。



重点的改善領域

外食やショッピングを地域で楽しめること

出かける際の移動が便利なこと

R5調査時に『D：重点的改善領域』であった「ごみや騒音などの問題がなく快適な地域であること（38.2%）」は、幸福実感度が高まり、今回調査において『A：重点的継続領域』に該当することとなった。

要検討領域

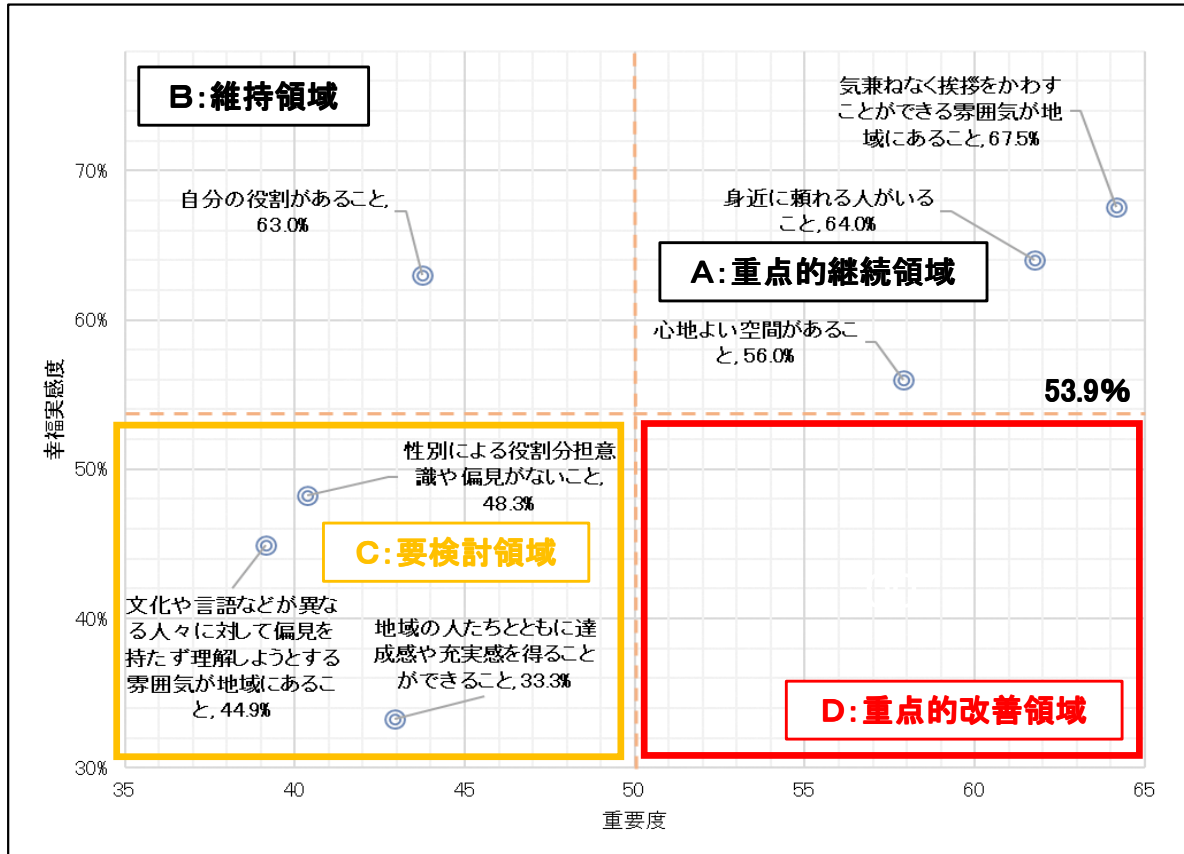
まちなみがきれいなこと

道路環境が充実していること

「外食やショッピングを地域で楽しめること(R5も重点的改善領域)」について、幸福実感度が低いのは、男女別では「女性」、年代別では「50代、60代」、居住地域別では「表郷、大信」であった。
 「出かける際の移動が便利なこと(R5も重点的改善領域)」について、幸福実感度が低いのは、男女別では「女性」、年代別では「30代、50代」、居住地域別では「東」であった。

⑥ コミュニティ

6分野47項目のうち、「コミュニティ」分野の7項目についてポートフォリオ分析を行った結果、『重点的改善領域』に該当した項目はなく、「多様性への理解」「性別による役割分担意識や偏見がないこと」「地域での交流の充実」が『要検討領域』に該当した。



要検討領域

文化や言語などが異なる人々に対して偏見を持たず理解しようとする雰囲気が地域にあること

性別による役割分担意識や偏見がないこと

地域の人たちとともに達成感や充実感を得ることができること

R 5 調査時に『D：重点的改善領域』であった「心地よい空間があること（29.6%）」は、幸福実感度が高まり、今回調査において『A：重点的継続領域』に該当することとなった。

「文化や言語などが異なる人々に対して偏見を持たず理解しようとする雰囲気が地域にあること(R5は要検討領域)」について、幸福実感度が低いのは、男女別では「男性」、年代別では「30代」、居住地域別では「大信」であった。
 「性別による役割分担意識や偏見がないこと(R7新規)」について、幸福実感度が低いのは、男女別では「男性」、年代別では「30代、40代」、居住地域別では「表郷、東」であった。
 「地域の人たちとともに達成感や充実感を得ることができること(R5は要検討領域)」について、幸福実感度が低いのは、男女別では「女性」、年代別では「30代、50代、60代」、居住地域別では「白河」であった。